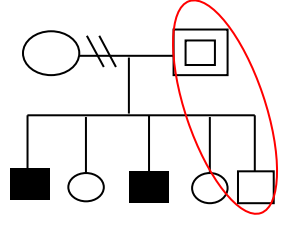


## 第2回研修会 抄録用紙

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>【演題名】</b><br>環境の整っていない患者の退院へのアプローチについて                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>【報告者】</b><br>地域連携部 高瀬俊彦                                                                                                                                                                                                                                                                          | <b>【所属機関名】</b><br>医療法人社団生和会 周南リハビリテーション病院                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>【事例のポイント】</b><br>患者の利用できるサービスや、家族の協力に課題がある患者に対して、有効なサポートにつなげられたか。自分がケースの中で学んだことを振り返りながら検討したい。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>【倫理的配慮】</b><br>今回の発表に際して、本人・家族に電話による説明と書面による同意を得て行う。                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>57歳男性（椎間板ヘルニア椎弓形成術・5/10OPE 後）</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・デイケアへ通いながら障害年金（1か月12万）での生活。</li> <li>・精神面で不穏症状はないが、注意力や現状の認識に不安がある。</li> <li>・家事は三男と分担して行うが、それぞれで近くに買い物へ行き、食事をしていた。移動にはバイクを利用していたが、事故で破損しており利用は難しい。</li> <li>・住宅は市営アパートの1階に住み、室内に手摺はなく、段差も多い状態。住宅改修は難しい。</li> </ul> |  <p>長女(KP) / 九州在住<br/>         本人の入院手続きや、財産管理を行う。</p> <p>元妻 / 周南市在住<br/>         生活保護を利用しながら別宅に住まう。<br/>         毎日本人宅へ訪問している。</p> <p>三男<br/>         スーパーにパート勤務している。<br/>         1年前に知的障害者施設から自宅に戻っている為、判断力には課題がある状態。</p> |
| <b>【既往歴】</b><br>30歳 統合失調症・精神障害者手帳2級<br>56歳 バイクから転倒により、頭部外傷・頭蓋内血腫除去術<br>57歳 バイクから転倒し、右大腿骨骨幹部骨折<br>59歳 C6/7 椎間板ヘルニア・椎弓形成術                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>【入院までの経緯】</b><br>2018年4月に頸部痛が出現し、検査の結果C6/7椎間板ヘルニアの診断。5月10日に椎弓形成術を行う。自宅への早期退院希望があったが、動作に不安が残る状態であり、家族の希望があり当院回復期病棟へ入院。                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>【入院中の経過】</b><br><b>2018年5月22日</b><br>当院へ入院。本人からはすぐにでも帰りたいという希望はあるが、立位は不安定・トイレ動作は手すりが必要で不安定であるため、オムツでの対応。歩行は平行棒内で行えており、病棟では車椅子移動の状態。三男は日中仕事であるため、介助力も限られて早期の退院は難しい状態。<br>この現状に対して本人は、「今のままで何とかできるし、バイクも乗れる。」という認識であり、家族からは「どうせ言うことを聞かないから、知らない。」と言われていた状態。                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <b>2018年6月中旬</b><br>リハビリの結果、前腕支持型歩行車での歩行・病棟のトイレでの動作が見守りで行える状態まで改善。自宅退院希望である為、家屋調査を実施。動作は何とか行えるが、トイレ・浴室までに段差が多く、屋内での歩行車なしで                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

の移動には不安は残る状態。

本人にはリハビリスタッフと共に家屋調査の様子も踏まえて現状を説明するが、バイクの運転も含めて以前の様に生活できるので、すぐに帰りたいと考えている。話をしていく中で、バイクについては移動手段がないと不便な位置に家があるという理由があった。長女からは、「このままで家に帰られては困るから、入所できる施設がないか。」という意思があったが、同居の三男の生活費の一部は本人の年金から支払っている状態で検討が難しい。元妻は現状には関心がなく、三男は「自分のことで精いっぱいだし、父は好き勝手にやる人なので、何を言っても聞きません。」という様子であった。

#### 〈課題点〉

◆本人と家族の中で今後のことについて、話し合いが出来ておらずまとまっていない。

◆利用できるサービスが不足している。

⇒介護保険、身体障害者手帳の申請は該当項目が無いため行えない。精神障害者を対象としたサービスでデイサービス利用は可能だが、自宅から1km離れた送迎場所まで移動が必要。リハビリ期限内には歩行補助具なしで移動する体力はつけられず、レンタルは精神障害者向けのサービスでは利用が出来ない。

#### 〈対策〉

◆同居の三男の思いを伝える場や、長女と電話し相談する機会を作る。家族からはリハビリをして日中は身の回りのことができるようになって退院して欲しいと希望を伝え、その為に他病棟での疾患別リハビリも検討するが、本人からは早期の退院がしたいとの思いが強い。本人の思いの中には金銭面の不安もあり、検討の結果、回復期病棟の期限日までリハビリを行ってから自宅退院を予定することとなった。

◆市営住宅の中でも通院する病院や作業所、スーパーの近くバリアフリー仕様のものがいくつかある為、紹介・転居の検討を本人・長女・三男と行う。

◆定期通院していた精神病院のワーカーと話し合い、利用できるサービスを検討する。医療による訪問看護サービス、退院後状況を見ながらのデイケア利用を検討。本人からは当初サービスは必要ないと希望があったが、現状ではバイクがない為いつでも通院できる状態ではない事、何かあったら相談しやすいことを説明し利用となる。

◆歩行器は家族とも相談し、購入することとなる。

#### 2018年7月20日

屋外は歩行車歩行で可能、屋内は伝い歩きの状態。リハビリ期限にて自宅へ退院。退院までに転居は行っていないが、自宅内動作は何とか行えている状態。通院や買い物に関しては家族の協力もあって見守りの中で対応。訪問看護も利用しながら生活していくこととなった。

退院後は自宅でも自主的に動作練習を行い、現在は屋外も杖で歩行され、家族とともに買い物もできている状態。購入した歩行器は必要ない状態になっており、送迎場所まで歩けていないことでデイケアには結びついていない。

#### 【考察・まとめ】

当院に入院される患者の年代は65歳以上が多く、介護保険が非該当となる患者に対して、どのようなサービスが提供できるかということを考えさせられるケースであった。実際につながった支援は不足しているが、他院のワーカーと連携をとる事や、本人と家族の話し合う場を作り、退院後の生活を支援することができた。

しかし、なぜ家族の関係性がうまくいっていなかったのかという背景への掘り下げが不足していたことや、利用できるサービスが何かということに捕らえられて考えており、地域の資源に関しても検討が出来ていなかった。そういった今後の自身の課題も見つかるきっかけとなったケースであった。